

電波資源拡大のための研究開発・平成29年度追跡評価

案件名	実施期間	評価会での主なコメント
車車間通信技術を活用したネットワーク構築に関する研究開発	H25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動体に対応したホワイトスペース通信技術の実現により、今後車車間通信等のモバイル通信環境における周波数利用用途の拡大が大いに期待できる。</li> <li>・標準化活動や技術規格反映活動に関しても積極的に取り組まれている。</li> <li>・技術的および経済的な波及効果の両者を総合的判断し、本案件は有益であると考えられる。</li> </ul>
79GHz帯レーダーシステムの高度化に関する研究開発	H23-H25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・77～81 GHz 帯の無線標定業務への割当てとして実現し、路側センサーとして実用化につながろうとしていることから、周波数の有効利用に大いに有効であると考ええる。</li> <li>・様々なアプリケーションが期待でき、現実に高速道路に適用されようとしていることから、その波及効果は大きいと考える。</li> <li>・ミリ波の開拓という技術的な意義と、ITS技術による安全性の向上という観点から有益であったと判断する。</li> </ul>
高速・高品質な無線通信実現のためのICチップレベルの低ノイズ化技術の研究開発	H22-H25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IC内ノイズの抑制による通信距離の拡大が見込め、効率的な電波の利用という観点から有効であったと判断する。</li> <li>・多数の論文が採録されているとともに、本技術は様々なアプリケーションへ適用できると考えられることから有益な技術であると判断する。</li> <li>・将来の高速大容量無線通信システムの開発には欠かせない技術であると判断でき、本案件は有益であったと考えられる。</li> </ul>
ホワイトスペースにおける新たなブロードバンドアクセスの実現に向けた周波数高度利用技術の研究開発	H23-H25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトスペースの有効利用技術の実現と標準化活動を通して、電波資源の拡大に対して大いに貢献があったと評価できる。</li> <li>・リアルタイムセンシング技術により、増加しつづける移動通信トラフィックの収容能力向上という観点で、社会的な波及効果が期待できる。</li> <li>・海外における評価も高く、総合的にみて有益であったと判断する。</li> </ul>